

しょう みず き あと
小 水 城 跡

大野城市教育委員会



図1. 上大利小水城 (昭和50年)



図2. 水城と大野城 (国土地理院発行地形図より)

大野城市と太宰府市の境に、西暦664年に造られた水城跡があります。博多湾から進入してくる敵を防ぐためのものです。しかし、水城のさらに西の山間部の小さな谷をさか上ぼり、山を越えて侵入してくる可能性もありますから、地形に合わせた小さな堤防をいくつか造りました。これらをしょうみずき小水城と呼んでいます。大野城市の上大利水城、春日市の大土居水城、天神山水城が残っており、水城、大野城と共に大防衛ラインを形成していました(図2)。



図3. 上大利水城 (平成6年)



図4. 上大利水城下部



図5. 大土居水城



図6. 天神山水城

上大利水城は大野城市の上大利（現在は旭ヶ丘）に残るものです。西鉄下大利駅からバス通りを南ヶ丘方面に進み、通称5号線のガードを抜けると左側に見えます。現在見えるのは土塁だけで、高さ約2m、最大幅15m、長さ約80mの大きさですが、できた当時はまだ大きかったです。また、今は埋って見えませんが、前面（下大利側）には濠^{ほり}があったと思われます。つまり、土塁と濠^{ほり}からなる防衛施設^{ぼうえいしせつ}です。

図1は昭和50年当時の上大利水城、そして図3が平成6年のものです。写した位置が違いますが、20年近くの間周囲の様子はずいぶん変わっているのがわかります。また、図4は昭和54年に発掘調査をした時の写真です。土塁の一番下の部分には、盛り上げた土が崩れないように木の杭を打ち込んでいました。盛土も少しずつ積んで踏み固めながらいねいに造り上げていきました。水城本堤では木の小枝や葉っぱが見つっていますが、まだ青々としていたそうです。

図5は春日市の大土居にある大土居水城です。うっかりすると見のがしてしまいがちですが、説明板が立っているのでわかります。現在残っているのは約75mの長さの土塁ですが、発掘調査によって前面（博多側）に濠のあることがわかっています。土塁の幅は約40mです。

図6は同じく春日市の天神山水城です。小高い丘から東にのびる土塁が残されています。長さは約70m、高さ3m、幅約20mです。丘の上には前方後円墳や円墳も残り、公園として整備されています。土塁は東西方向のものだけが残っていますが、丘から南にのびる土塁もあったと考えられています。

このようにして、博多湾の方から侵入してくる敵に対してそなえましたが、南側の有明海から侵入する敵に対しても同じような施設がありました。佐賀県の基山町に残る関屋土塁、とうれぎ土塁などです。古代人の敵に対する不安感や考え方の大きさに驚かされます。

※図2は建設省国土地理院発行5万分の1地形図をもとに縮小したものである。